

目 次

1. 第60回大会に参加して
 - 1) 田和正孝会員
 - 2) 米田 寛会員
2. 第60回大会総会議事録 (予算、決算、監査報告含む)
3. 編集委員会からのお願い、投稿規定・投稿要領改訂について
4. 事務局からのお知らせ
 - 1) 会員情報の登録と更新のお願い
 - 2) 会費納入のお願い
5. その他
大会報告要旨集の印刷について

1. 第60回大会に参加して

1) 田和正孝会員

第60回という節目にあたる地域漁業学会大会が、2018年10月27、28の両日、近畿大学農学部奈良キャンパスにて開催された。会場校として準備段階から当日の運営までの一切をお世話くださり、2日間の日程を盛会に導いてくださった前潟光弘会員にまずは心よりお礼を申し上げたい。第1日は各種委員会・理事会に引き続きシンポジウム、第2日は2会場に分かれて幅広い分野からの計20本の個別報告がおこなわれた。1977年の愛媛県宇和島大会以来、ほとんどの大会に参加してきた私にとって40年間をしみじみと振り返る時間を与えていただけたことにも感謝している。

さて、シンポジウムの構想は、企画委員会および近畿部会を中心に練り上げられた。この夏は「災害列島」という名をほしいままにしたような3か月であったことから、報告予定者を交えての事前の打ち合わせ会開催にもご苦労が多かったと伺っている。そうしたなかで、タイトル「今後の地域漁業を考える—60回大会を迎えて—」のもとに、学会のこれまでの歩みを振り返りつつ、地域漁業の今後の方向性を見出すための4つのテーマが設定された。それらは産地流通(報告者は常 清秀氏)、消費者から見た水産物流通(竹ノ内徳人氏)、漁業振興・漁村活性化と「人づくり」(河原典史氏)、人材確保と人材育成(佐々木貴文氏)である。いずれも時宜にかなう重要なテーマであり、各氏はテーマに沿って分厚い考察を展開された。報告内容は論文として学会誌(シンポジウム特集号)に掲載されるので、会員諸氏にはそれまでしばらくお待ちいただかねばならない

が、当日、コメンテーターに加えていただいた一人として、ここに若干の考えをまとめておきたい。

実は私自身も近畿部会の一員であるにもかかわらず、打ち合わせ会に出席することなく、シンポジウム当日を迎えた。ただし、『報告要旨集』に掲載された前潟氏による「解題」のなかに、「これまでの学会の歩みに関して感じることを述べるようにとの一文があり、また河原報告の要旨冒頭には地理学的アプローチの特長についての簡潔かつ的確な説明が付されていたので、それに応じるような形で数枚のスライドを準備して臨んだ。準備が可能となったのは、これまで大会当日に配布されていた『報告要旨集』が、今回から大会前にホームページ上にアップされるという方法に変更されたからである。初めてのこの試みは私にとってはたいへんありがたく、大きな恩恵を与えていただくことになった。

河原氏は、地理学には「空間」と「時間」とを重ね、「景観」に表れる「地域性」を解説する点に特長があり、地域の性格が理解されるように「空間」と「時間」はそれぞれスケール（尺度）をテーマに応じて変えられることを指摘している。私も河原氏と同じく漁業地理学を専門とする輩であることから、この指摘を踏まえたうえで、1970年代当時、本学会の前身である西日本漁業経済学会で活躍されていた藪内芳彦先生、河野通博先生をはじめとした多くの漁業地理学者の先生方に思いを巡らし、地理学者はフィールド（地域性）を重視するこの学会の研究姿勢を共有しつつ、漁業経済学分野の先生方とおそらく居心地のよい「緩やかな関係性」を築いていたのではないかと結論づけた。ただし、彼らには地理学界というもう一つの活躍の場があった。そこで、彼らが本学会をホームと考えていたのか、あるいは本学会ではビジターであったのかという問いかけをフロアに投げかけてみた。合わせて、系統地理学と地誌という地理学のアプローチのしかた、地理

学における時・空間のとらえ方、漁業地理学の方法とスケールの問題などを述べたうえで、果たしてこの学会における地理学者のポジションはどのようなものであったかと自問自答したのである。きわめて雑なコメントにすぎなかったが、本学会を今後背負って立つ若い地理学者とそれを迎えてくださる多くの他分野の研究者の皆さんへの拙いメッセージと受け取っていただければ幸いである。

山下東子会長のもと、事務局を外部委託して再び走り始めた観のある大会であった。とはいえ現在も事務局を実質的にご担当くださっているのは山尾政博会員と天野通子会員である。お二人にはお礼の言葉もない。若林良和会員を中心とする編集委員会の先生方にもご苦勞が多い中、スムーズに学会誌を発行いただいている。本当にありがとうございます。

最後になるが、大会会場へ向かう道すがら、本学会を長年にわたってご指導いただいていた榎彰徳先生の訃報に接した。報告会場ではいつも透き通るような美声で、齒に衣着せぬ質問やコメントをいただいた。また立派なカメラを持参され、記念の集合写真を必ず撮影くださり、キャプションを付したうえで現像し、会員にお配りくださった。先生の学者精神と暖かなお心はいつまでも忘れまい。どうか安らかに眠りくださいとお願い申し上げ、筆をおく。

2) 米田 寛会員

10月27、28日奈良市の近畿大学農学部キャンパスで開かれた第60回大会に2年ぶりに参加した。大会は私にとっても記念すべき大会となった。

近畿大学前潟先生が大会の歴史を整理してくれたことで、学会の全体像が理解でき、自分のことも振り返ることができた。私が初めて学会に参

加したのは第 15 回鹿児島大会。全国的に公害問題が論じられていた時で、私は初参加にもかかわらず別府湾の赤潮の現状についてスライドを使って報告をした、かなりの反響があったと記憶している。

シンポでコメンテーターを務めた島、田和、若林 3 名の先生方から懐かしい名前がたくさん出てきた。私は、学会の創設者でもある中楯先生から入会を勧められた。先生は水産庁主催の水産業改良普及員のブロック研修などで講師を務められ存じていた。先生は公害問題に取り組む漁業者を励ますため、大分県の海岸線を私の運転する軽四輪車で回ってくれた。先生からは人使いが荒いとよく言われた。

当時の瀬戸内海の公害問題で欠かすことのできない学識経験者として活躍されていた、岡山大学の河野通博先生の名前も出た。すべての先生のお名前を記すことはできないが、学会には素晴らしい先生がたが多くいたことを改めて感じ、学会員であることを誇らしく思えた。

私は 45 年近い学会在籍の中で、これまで 3 回しか報告していない。論文は 2 回掲載されているのみである。喜寿を迎えた今日、自分が学会に所属する意味はどこにあるか改めて考えた。現職の時は、大分県の水産関係者は、技術偏重で、流通とか水産経済には関心が少なかった。そんな同僚に少しでも流通関係の情報を伝えることを念頭に大会に参加した。

退職して「みなと新聞」の記者をしていた時は、学会の総会の様子や諸先生方の研究や活動の報告に意を注いだ。そして今、何を目的に学会に所属しているのか。自問自答しているが、諸先生方との交流こそが目的となっているのかもしれない。自分の「なぜ」を考える。そんなことを感じた第 60 回の大会であった。

2. 地域漁業学会第 60 回大会総会議事録

2018 年 10 月 27 日

I 第 60 回大会運営について

第 60 回大会（近畿大学農学部）の実施にいたる経過報告が報告された。

II. 第 59 期事業報告

1. 事務の外部委託の 1 年経過の報告

1) 本部事務局より、2017 年 5 月 1 日より学会誌及び会報の発送、会費請求と徴収、会員情報の管理、会計事務等について、株式会社共立に外部委託した経過が報告された。

2) 同年 9 月 1 日より編集委員会業務の事務委託が開始された。

3) 収入支出の日常的な管理は共立、事務局担当が請求書等をチェック、最終決済は田和前会長が行う体制を整えた。

4) 会員情報の更新はホームページ上で行えるようになった。

2. 会員動向について

1) 本部事務局より会員動向について報告があった。

2) 会費長期未納に伴う退会処理予定者について報告があった。

3. 広報関係について

1) 本部事務局より、3 号の会報発行、HP の作成について報告があった。

2) 大会報告要旨集・スケジュールを PDF にて提供した旨の報告があった。

4. 学会誌の発行について

1) 編集委員会より、3 号発行した旨の報告があった。

2) 農業経済系学会による投稿規定統一化の動きにあわせて、学会誌の投稿規定・執筆要領を改訂する旨の報告があり、了承された。

5. JSTAGE の利用に関する検討

山下学会長の指名により WG のメンバーが選出され、JSTAGE に学会誌を掲載することに関する検討が行われた。検討結果が報告され、引き続き検討することが了承された。

6. 学会賞の選考について

学会賞選考委員長より、学会賞・奨励賞(中楯賞)・功労賞(柿本賞)の選考結果が報告された。該当者なし。

7. 部会報告

近畿部会からの報告があった。

9. 第 59 期の決算報告

本部事務局から、会費納入状況、全体の支出状況(事務局・編集業務委託経費、学会誌発行経費、会報発行経費等の支出)、事務局経費による旅費負担、休眠口座の扱いについて報告があり、了承された。(60 期予算計画の項参照)

10. 第 59 期会計監査報告

田中・米田監事より監査結果について問題等ない旨の報告があり、了承された。

III. 学会賞選考委員選挙

理事会における選挙により、田和正孝、前潟光弘、常清秀の 3 名が選出されたことが報告された。また、田和正孝氏が選考委員長に決まったことが報告された。

IV. 第 60 期事業計画

1. 事務の外部委託について

1) 学会誌編集関係、会計事務を含む事務一般については株式会社共立に外部委託することが了承された。

2) 田和理事が引き続き決済を担当することが了承された。

2. 事務局の活動について

1) 過年度未納会員への請求、期内の会費納入のお願いをする。

2) 会報を 3 回発行し、HP を活用する。

3. 学会誌編集について

1) 3 号発行を計画する。

2) 編集委員の増員を行う。

4) JSTAGE に学会誌を掲載することについて検討する。

4. 学会賞選考委員会について

学会賞、奨励賞(中楯賞)、功労賞(柿本賞)を選考するとの報告があり、了承された。

5. 第 60 期予算計画について

1) 事務局より、支出計画(事務局・編集業務委託経費、学会誌発行経費、会報発行経費等の支出)の報告があり、了承された。

2) 事務局経費による旅費負担について報告があり、了承された。(監事 1 人、監査のための東京出張; 研究企画担当理事(常勤職なし)の出張 1 回)

60期(2018年度)一般会計予算計画
(期間:2018年10月~2019年9月)

項目	第59期決算	第60期予算
前年度繰越金	6,375,016	6,013,853
会費収入	1,708,400	1,500,000
大会参加費収入	55,000	55,000
学会誌販売収入(購読会員他)	172,000	150,000
掲載料(報告論文12本、一般2本)	63,200	100,000
振替自己負担金収入	80,328	50,000
学術著作権	44,361	44,000
雑収入	77,617	2,400
寄付金	100,000	0
利息	42	40
当年度収入	2,380,948	1,981,500
合計(前期繰越金+当年度収入)	8,678,964	7,995,353
↑支出		
項目	第59期支出	第60期予算
本部事務費	885,285	891,500
事務委託費	756,000	756,000
HP関連費	30,740	35,000
事務通信費	44,593	50,000
事務用品	302	500
経費通費	53,660	50,000
学会誌作成費	1,351,944	700,000
振替作成費(著者負担分)	77,436	50,000
会報作成費	50,522	60,000
会議・会報発送費	98,944	100,000
大会準備費	117,820	100,000
大会運営車代	83,160	10,000
委員会・部会費	0	30,000
学会費納付費	0	30,000
当年度支出	2,695,111	1,971,500
次期繰越金	6,013,853	6,023,853
合計(当年度支出+次期繰越金)	8,678,964	7,995,353

6. 次期大会について

会長・研究企画委員会が引き続き検討する旨の報告があり、了承された。

3. 編集委員会からのお知らせ

投稿規定、執筆要項が改訂されました。詳しくはHPをご参照ください。

<http://jrfs.org/toko.html>

4. 事務局からのお知らせ

1) 会員情報更新、メール登録をお願いします。

メール登録をしていただくようお願いいたします。(メールの配信数は多くはいたしません)。メールアドレスの変更、住所変更は、WEB上でできます。

<http://jrfs.org/nyukai.html>

不明な点がございましたら、ホームページ上の問い合わせメールをお願いします。事務的なことについては、共立のご担当がおこたえいたします。

2) 会費納入のお願い

第60期会費納入、過年度分についても納入をお願いいたします。

請求書は改めて発送いたします。

5. その他

○大会報告要旨集の印刷について

第60回大会では大会要旨集をPDFにて提供し、印刷はいたしませんでした。事務局の作業軽減になるとともに、支出も削減することができました。

また、学会のHP上で公開して、大会に参加できない会員にも閲覧してもらえるようになりました。次回も今年と同様にPDFにて提供する予定です。

○訃報 2018年10月26日、当学会会員で永年にわたり事務局・理事・監事等を歴任された榎彰徳会員がご逝去されました。生前のご厚意に感謝し、謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

地域漁業学会

<http://jrfs.org/>

本部事務局 株式会社共立内

〒104-0033 東京都中央区新川 2-22-4 新共立ビル (榎共立内)

(担当：三角誠司) TEL: 03-3551-9896 FAX: 03-3553-2047

郵便振替：01750-0-83886

銀行振込：三菱東京UFJ銀行 新富町支店 普通 0146078

